

# 1. 調査報告概要表

作成日 2008年8月29日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2173200128
法人名	株式会社 新生メディカル
事業所名	グループホームしんせい
所在地 (電話番号)	〒501-0222 岐阜県瑞穂市別府1193 (電話) 058-329-5118
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内
訪問調査日	平成20年8月11日

## 【情報提供票より】(20年8月11日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 1 日
ユニット数	1ユニット 利用定員数計 6 人
職員数	13 人 常勤 2 人, 非常勤 11 人, 常勤換算 5.9人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 2階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000~50,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	(有) 入居契約金 200,000 円 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 100,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	100 円
または1日当たり 1,100 円(おやつ代を除く)				

### (4) 利用者の概要(8月11日現在)

利用者人数	6名	男性	0名	女性	6名
要介護1	0名	要介護2	0名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.5 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	広瀬内科クリニック、松野歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームしんせいは、街中の既存住宅を活かしたホームで、周りには役所・郵便局・消防署・銀行・喫茶店・スーパーがある便利な立地条件の中に位置している。利用者は同じ建物の1階に併設されているディサービスの利用者と共に、らくやきや小物づくり、歌や踊り、読経など様々なアクティビティに生き生きと楽しく参加しており、ディサービスの車を利用し日中の外出も頻繁に行われている。職員研修の年間計画が立てられ、段階にあった研修がされており、尊厳を大切にされた温かいケアが行われている。老人会や自治会に加入し、保育園や学校との交流、地域のボランティアの受け入れが行われ、情報発信も積極的に行うなど、地域との交流にも積極的なホームである。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点は5点あったが、毎月ミーティングが行われ、積極的な改善の取り組みがなされた。運営に対する意見やケアプランに対する検討・運営理念の浸透が行われ、介護計画は3ヶ月ごとの見直し、献立は栄養士のアドバイスを受ける等の改善が行われた。また運営について家族等の意見を聞き、災害対策・避難訓練へ近隣住民の参加、地域行事への参加など積極的に取り組まれた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価はありのままに評価を行った。判断しにくいところは相談しながら評価した。その後サービスの視点に添って利用者の特徴を考えながら話し合い、積極的に取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では外部委員を含め、定期的に利用者の状況やサービスの情報提供を行い、サービスの向上に努めている。小学校の要望を受け、自治会長より提案された子ども110番の設置を決めた。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>苦情相談窓口は所長となっていて意見箱も設置されている。また外部の相談員の任命も、自治会長、オーナーになされている。月1回家族との連絡を行ない家族の面会の際には、できるだけ希望や意見を聞き、運営に反映するよう努力している。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者の日常生活は、その人らしくを大切に利用者の希望や能力に合わせて支援されている。事業所は自治会に加入し、機関紙の配布や中学生の体験学習・保育園との交流・ボランティア等の受け入れ等を行い、また地域の作品展への出品するなど地域との交流を進めている。</p>

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「一人ひとりが持てる力を活かし、役割を持ちながら、家庭的な環境で地域との交流を図り、生活できるよう支援します」を事業所独自の理念として掲げ、重要事項説明書にも記載している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は職員に対し、採用時やミーティング、勉強会で理念に対する考えを伝え、日常サービスの中で指導し、実践に取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所は自治会に加入し、機関紙の配布や回覧板で行事案内等報せている。ホームの行事には、地元の人々の多くの参加がある。また、中学生の体験学習、保育園との交流、ボランティア等の受入れ、地域の作品展へ出品するなど地域との交流に努めている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は具体的改善目標を掲げ、評価に対する理解を深めている。また具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1度外部委員を含めたメンバーで開催され、利用者の状況やサービスの情報提供を行っている。小学校の要望を受け、自治会長より提案された子ども110番を設置するなど、地域との連携を図りサービスの向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者が併設のデイサービスに来所する際話し合いを持ったり、事業所から頻繁に出向いて報告や相談をするようにしており、会議以外にも相談や話し合いができる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月機関紙を郵送し、個々の家族へ連絡を行い、金銭管理を報告しアンケート用紙も同封している。ほとんどの家族は面会に来られるのでその機会を利用して日常の暮らしぶりを伝えている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口は所長となっており、意見箱も玄関に設置されていた。家族の意見を運営に反映させるよう第三者委員(自治会長、オーナー)の選任もなされている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	信頼関係が出来ている職員の異動・離職時の際の利用者のダメージが大きいことは認識しているので、職員の定期異動がある際は、利用者を含め全員で話し合い、相談するなどの配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、事業所内外の研修を受ける機会を設け、知識や技術の習得ができるよう努力している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会へ参加したり、系列のグループホームの会議にも出席したりして、意見や情報の交換を行い、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスを利用して入所される方がほとんどで以前から顔見知りの間柄である。職員も知り合いで馴染みの中での利用となっている。家族の写真や表彰状、机等の持ち込み品もあった。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	普通の暮らしの中に利用者と職員が互いに支え合う関係に重点を置いている。日々の生活で利用者に教えてもらうことも多く、共に過ごし支えあう関係ができています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	サービス開始時に詳細なアセスメントを行い利用者の思いや暮らしへの希望を把握するようにしている。また、介護計画の立案や見直し時は利用者や家族、デイサービスの職員の意向、意見を記録し検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は利用者ができること、興味あることなど一人ひとりに合った介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1度カンファレンスでケアプランの見直しを行っている。利用者の状況に変化がある場合は随時、家族・担当者のリーダー・主任・管理者で会議を行い、介護計画を見直している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算体制を取り、月に2度訪問看護に来てもらい、利用者の健康管理をしている。通院介助や利用者の昔の家を見に行くこと、墓参りの付き添い等支援している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の主治医に4人と利用者のかかりつけ医に2人がかかっているが、医師と訪問看護師、ホームとは常に連絡を密にしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	開設以来まだ終末の看取りは経験していない。訪問看護のアンケートで終末時どこで迎えたいかというアンケートは取っているが方針についての話し合いは十分でない。今後家族会等で話し合いをしたいと考えている。	○	なるべく早い段階から、延命治療等、重度化した時の希望を聞き、定期的に見直しや話し合いを行い、医師や管理者、職員で方針を共有していくことが望まれる。
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報については勉強会を行ない、取り扱いに気をつけている。職員は利用者の尊厳やプライバシーを損なわないよう、利用者の目線で丁寧な言葉かけをしている。また持っている力を手助けするような支援をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床や食事、行事参加など、言葉かけをしながら、利用者のペースに合わせて対応している。なるべく選択肢を出して、利用者を選択してもらおう心がけている。眠れない利用者にも安易に睡眠導入剤に頼るのではなく、不安を解消する事により眠れるような支援をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝晩の食事の献立は、利用者の好みを取り入れて作成している。毎回3～4名の利用者が準備や後片付けを手伝ってくれており、味付けを利用者が確認している。献立については、定期的に系列のサンビレッジフーズの栄養士に診断してもらっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週に4回、3時半以降から入浴を行なっている。入る順番など利用者の意思を尊重している。入浴後は利用者は気持ちよさそうにニコニコして出てくる。介助が2人必要な利用者は、1階のディサービスで入浴している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者は生活歴を活かし、毎日の料理や配膳、洗濯物干し、畑仕事など行っている。また1階に併設されているディサービスのアクティビティの焼き物や習字、読経、様々な作品づくりに積極的に参加している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	月に1度の外食の他、買い物・喫茶店・散歩など、週に1回以上出掛けている。外出支援は利用者の希望や状況を考慮して、行っている。ディサービスの車を利用できるので、車で出かける機会も多い。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	1階のディサービスとは、階段やエレベーターを通じて行き来でき、利用者は自由に移動し、ディサービスのアクティビティに参加している。日中、玄関の鍵はかけられていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難訓練・消火訓練を行っており、近隣の方に声をかけ参加してもらい、避難の際おぶってもらう練習をしたりしている。回覧板でホーム便りを回覧し、情報を伝えるなど、近隣との非常時に備えての関係づくりに努力している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量については、チェック表で水分量の確保につとめている。刻み食の利用者が二人いるが、食事には時間をかけて十分食べれるよう支援している。口の中の食べ物がなくなるまで待ち、ゆっくりと食べている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、写真が貼られ、植物の鉢・手づくりの小物や人形・利用者が活けた生け花など飾られた家庭的な居心地の良い空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、なじみのものを持ち込めることを入居前に説明しており、利用者の思いの入った筆筒や椅子・テーブルなどが置かれている。また利用者が作った小物や家族からの手紙・写真が飾られている居室も見受けられた。		